

# このまちで みんなと 生きてゆく

～ひろがっています！多文化共生の輪～



はじめに

豊島区民社会福祉協議会では、“誰一人取り残さない”地域共生社会の実現を目指しています。

令和5年1月1日現在の住民基本台帳によると、豊島区の住民登録数は288,704人、うち28,933人は外国人登録で10.02%を占めています。令和4年の統計になりますが、全国では2.15%、東京都でも3.75%ですので、豊島区は外国人が多く生活している地域といえます。

これまで、私たちが普段暮らしの相談を受けている中に、外国人からの相談はそう多くありませんでしたが、コロナの影響を受けたくさんの方が生活に困り、特例貸付の相談をきっかけに、外国人の生活の様子が少しずつみえてきました。言葉の問題や外国人支援特有の問題もありますが、生活をしている中で抱える困りごとは日本人と同じです。

相談支援を重ねていく中で、新たな支援活動が立ち上がったり、区内で外国人支援の活動をしていた団体とのつながりができました。

この冊子を通して、外国人支援の関心が高まり、同じ地域住民としてのつながりが広がっていくことを願っています。

社会福祉法人 豊島区民社会福祉協議会

豊島区民社会福祉協議会では、区民の誰もが同じ社会の中で孤立することなく、人とのつながりをもって生活していくことができるようコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置しています。（豊島区委託事業）

CSWは、誰もが暮らしやすいまち（地域共生社会）の実現を目指して、一人ひとりの生活や思いに寄り添いながら、地域住民や関係機関・団体等とともに、地域づくりに取り組んでいます。

CSWは、8か所の区民ひろばに常駐しています。



※この冊子では、外国にルーツやつながりを持つ方々を外国人と表記しています。

## 目次

### 豊島区内の活動紹介

#### 区内の外国人支援活動の紹介！

- ▶ 1 コラム①「多文化共生ってなに？」
- ▶ 2 日本語教室 in としま
- ▶ 3 としまる (TOSHIMA Multicultural Support)

### 活動者さんへインタビュー

#### 外国人支援に携わる方に聞きました！

- ▶ 7 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 石平 晃子 氏
- ▶ 8 シュエガンゴの会 ヌエ・ヌエ・チョー氏
- ▶ 9 Mother's Tree Japan 坪野谷 知美 氏
- ▶ 10 マスジド大塚 クレイシ・ハールーン氏

### CSW が関わった取り組み

#### CSW の関りや活動の展開など

- ▶ 12 Zoom 交流会 ～フレイル対策センター×メロス言語学院～
- ▶ 13 地域福祉サポーターによる通訳ボランティア  
コラム②「地域福祉サポーターとは？」
- ▶ 14 多文化共生交流会 ～サロンデザミ高田～
- ▶ 15 外国にルーツのある方へアンケート調査を行いました！

## 豊島区内の活動紹介

豊島区には日本語学習に取り組む団体のネットワークや、関係支援団体が情報交換や取り組みを広げるネットワークがあります。新型コロナウイルスの影響で社会経済活動が激変し、外国人の生活問題がクローズアップされました。それを機に、外国人への多方面にわたる支援を行う仕組みも生まれました。

ここでは、豊島区の日本語教室（サークル）と、「としまる（TOSHIMA Multicultural Support）」についてご紹介します。

日本語教室 in としま・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2

としまる（TOSHIMA Multicultural Support）・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3

### コラム①

#### 【多文化共生ってなに？】

「多文化共生」とは、「国籍や民族などの異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと」

#### 【多文化共生のまちの実現にむけて—豊島区—】

- ・国籍や人種を問わず、区民は多様な価値観をもっています。外国人を含めた多様な区民が、互いに尊重し安心して暮らせる多文化共生を推進し、豊かなコミュニティの形成を図ります。
- ・国籍や人種の違いを超え、地域社会の構成員として共生していく取り組みを推進します。

（『豊島区多文化共生推進基本方針』より引用）

# 日本語教室 in としま



日本に住む外国人の中には、母国では問題なく生活できる方でも、日本語が話せないことで就職できない等、生活に困難を抱える場合も少なくありません。

コミュニケーションにおいて大切な役割をもっているがゆえに、ときには生活上の壁となってしまう「言葉」。豊島区には、そんな言葉の壁に対する支援を行い、日本に住む外国人の暮らしを支えるための日本語教室があります。

豊島区では文化庁委託事業の一環として、学習院大学国際センターと協力して区内の日本語教育体制の整備を進めており、地域で生活をしている外国人が日本語を学べる場所を示した「豊島区日本語学習環境マップ」を作成しています。

マップは日本語、英語、韓国語、中国語版（簡体字）、中国語版（繁体字）、ベトナム語、ネパール語、ミャンマー語の8か国語に対応しています。



「豊島日本語学習環境マップ」や、各日本語教室の最新の情報については、豊島区 HP をご覧ください。



豊島区 HP「日本語教室」

【お問い合わせ先】

学習・スポーツ課生涯学習グループ

★日本語学習環境マップに掲載されている以外の日本語教室についてもご紹介します★

## 【としま・にほんご・フレンズ】

日時：土曜日 14時から16時まで

会場：雑司が谷地域文化創造館美術室

（雑司が谷 3-1-7）

東京メトロ副都心線雑司が谷駅 2番出口

参加費：無料

対象：日本語を少し勉強した人

ひらがなが読める人

内容：「休みの日」「日本に来たとき」「私の幸せ」

など、自分のことについて話す

参加申し込み・問い合わせ

toshima.nihongo.friends@gmail.com

## 【おうだい子ども日本語教室】

日時：第1・第3土曜日 14時から16時まで

会場：大正大学（西巣鴨 3-20-1）

2号館 251・252 教室

参加費：無料

対象：日本語の勉強や教科をしたい小中学生

内容：大学生が外国にルーツのある子どもたちへ

日本語や教科の勉強、日本文化等を教える

参加申し込み・問い合わせ

odaikodomo.taisho@gmail.com

※参加希望の際は、事前に各団体にご連絡ください。

# としまる (TOSHIMA Multicultural Support)



「としまる」が始まるまで

としまる (TOSHIMA Multicultural Support) は、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が実行主体となり 2021 年 5 月から始まった、外国人支援の一つです。

豊島区では特例貸付<sup>※1</sup> 申請者の約 4 割が外国人であり、コロナ禍で職を失い生活に困窮する方や、コロナ禍以前から苦しい生活を送っていた方が多いことが分かってきました。

そこで、シャンティ国際ボランティア会が「休眠預金等活用事業<sup>※2</sup>」を活用し、以前よりつながりのあった弁護士法人東京パブリック法律事務所、特例貸付の窓口であった豊島区民社協などとともに事業を開始しました。

※1・・新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業などで生活資金に困っている方向けの貸付制度

※2・・2019 年に始まった、10 年以上取引のない預金 (休眠預金) 等を社会課題の解決・民間公益活動の促進のために活用する制度。

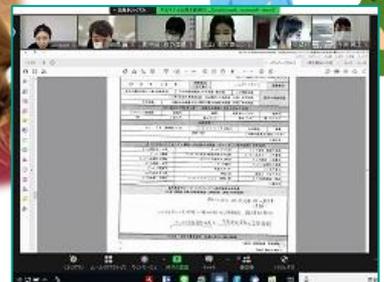
## 支援の内容

主な支援の内容としては、毎月 1 回開催を目標にフードパントリー (食料支援) を行い、必要に応じて専門職が相談も受けます。相談内容によっては、後日支援者で振り返り、今後の支援について協議することもあります。

フードパントリーやセミナーと併せて実施した相談会は、2021 年に 10 回、2022 年に 14 回開催され、来場者は計 742 名となりました。



(フードパントリー当日の様子)



(支援者の振り返り (Zoom) の様子)

## 支援の輪

それぞれの強みを生かして連携しながら、支援をしています。行政や他の支援団体等は広報で、企業や寺院・神社等には食料や会場の提供で協力をいただきました。

アジア各国での教育文化支援、  
国内外での災害時等における  
支援を行ってきた NGO

### シャンティ国際 ボランティア会

→実行主体、コーディネーターの育成など

シャンティから  
つながった外国人

### コーディネーター

→公的窓口への同行などの個別支援や通訳など

「市民の法的駆け  
込み寺」を目指す  
池袋の法律事務所

### 東京パブリック 法律事務所

→外国人の法律相談や  
在留資格の申請支援など

地域住民等とともに  
地域づくりを推進  
する法人

### 豊島区民

### 社会福祉協議会

→特例貸付利用者への周知  
個別支援、外国人と地域のつなぎ  
(参加・活躍支援) など

### 行政

### 区内の団体等 ※3

→広報、食料・会場提供、個別支援など

#### 【支援の流れ】

##### 広報

チラシ郵送  
SNS・口コミ



##### フードパントリー 相談会

食料配布  
来場者への聞き取り



##### ケース会議

今後の支援内容を  
関係者が話し合う



##### 個別支援



※3・・・豊島区役所、豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク、Mother's Tree Japan、良品計画  
功雲院、白泉寺、五郎久保稲荷神社、マスジド大塚など

活動を継続し外国人からの多くの相談を受ける中で、住まい、子育て、仕事、言語など共通した課題があることが分かってきました。そして「**就労に関する支援の必要性**」や「**人とつながる必要性**」があると考え、様々なイベントへと展開していきました。

### 就労に関わる支援

#### 「特定技能ビザ」セミナー

- ・ 就労に関わる在留資格や日本語検定の講座
- ・ 行政書士、技能実習生受入団体と連携

#### ハローワーク連携イベント

- ・ ハローワークの登録、使い方、就職活動などの講座
- ・ 厚生労働省の担当部署と連携



### 人と人、人と地域がつながる支援

#### ミャンマー親子交流

- ・ 親子交流会を区民ひろばで開催
- ・ 子育てや教育（進学）などについて情報交換



また、活動を通じて、**相談できる場所が定期的にあることの重要性**を感じ、現在試験的に日本語学校のスペースを借りた相談会も毎週 1 回開催しています。相談にはコーディネーターが対応していて、日本語の練習や書類作成のアドバイス等を行っています。

#### 【シャンティ国際ボランティア会 村松さんより】

どんな人でも「助けて」と言える環境を目指して、活動を続けています。人も課題も多様な豊島区でたくさんのご縁を頂き、外国人の支援スタッフも活躍する、これまでに無い支援のかたちがありました。

しかし、そこには地域の主役である住民の皆さんの存在が欠かせません。国籍や文化に関わらず、「近くの他人」同士が困ったときに支え合える。そんな共生の輪を、これからも紡いでいきます。



## 活動者さんへインタビュー

豊島区は外国人住民が全住民の約1割を占めています。そんな中、区内では多文化共生にむけて幅広い取り組みが行われています。外国人の出産や子どもの学びに関する支援活動、外国人が中心となっているボランティア活動などです。

ここでは、活動者の方へのインタビューで伺った、活動内容や始めたきっかけ、活動への思いなどをご紹介します。

池袋 WAKUWAKU 勉強会	p7
シュエガンゴの会	p8
Mother's Tree Japan	p9
マスジド大塚	p10

# 池袋 WAKUWAKU 勉強会

池袋 WAKUWAKU 勉強会は、2013 年から始まりました。毎週月曜日 15 時～20 時、池袋小学校の近くで実施しています。主に近隣の小中学生が毎週 20 人前後通ってきます。近年外国ルーツのお子さんの人数が増え、現在は約 6 割になっています。



勉強会を見学させていただき、運営している豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク(以下 WAKUWAKU)理事の石平晃子さんに、活動についてお聞きしました。

活動のきっかけは、当時、WAKUWAKU が主催する「池袋本町プレーパーク」に来た学生ボランティアが学習支援をやりたいと動いてくれたこと。当時の学生が卒業した後も、WAKUWAKU や地域の方で活動を続けてきました。今は社会人ボランティアもいますが、学生ボランティアが多く、ホームページをみて来てくれます。

基本的にマンツーマンで教えています。勉強のほか、中学三年生には受験面接の練習をすることもあります。日本の子どもたちもいますが、最近はネパールにつながる子どもたちが口コミで増えてきました。場合によっては外国ルーツの子どもたちに合わせた、個別の教材を準備する必要もあります。親が三者面談や日本の受験の仕組み等がわからず困ってしまう、親とのコミュニケーションがうまくいかない、子ども同士が母語でけんかになった時の仲裁のニュアンスが伝わらないなど、言葉や文化の違いから難しさに直面することも。そんな中、小学生の頃通っていた外国ルーツの子どもが大学生になってボランティアで来てくれており、とても助けになっています。

また、WAKUWAKU では、プレーパークや子ども食堂などの事業も行っており、それぞれ連携しながら子どもたちをサポートできることが強みです。

WAKUWAKU 勉強会を続けて約 10 年になります。この間、子ども達の参加人数がかなり減ってしまった時期もありました。しかしとにかく継続していくことで、再び来てくれるようになった子がいたり、親御さんが知り合いの子どもを連れてきてくれたり。“いつだってそこにある”場を今後も続けていけたらと思います。

## 取材メモ

学習だけでなく子どもたちの気持ちや、場合によっては生活面のサポートも気に掛けるように心がけているというお話でした。子どもやボランティアさんの誕生日に寄せ書きをお渡しする取り組みをされていて、細やかな心遣いがアットホームな場を作り出しているように感じました。

豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク HP

HP



Facebook



Twitter



# シュエガンゴの会



ヌエ・ヌエ・チョーさん

高田・高田馬場地域一帯はリトルヤンゴンとも呼ばれる、ミャンマーの方が多く住む地域です。「シュエガンゴの会」では、日本で生まれ、あるいは育ったミャンマーにルーツがある子どもたちに、母国の言葉や文化を教えています。

高田3丁目でミャンマー料理店「ルビー」をご夫婦で営んでいるヌエ・ヌエ・チョーさんに、シュエガンゴの会の活動の経過と祖国への思いについて話をお聞きしました

2016年、「シュエガンゴの会（素晴らしいガンゴの花の意）」を始めました。はじめは日本語にしか興味がなかった親たちも、ミャンマーの政治が安定し帰国できそうな情勢になり、考えが変わりはじめました。以前から子どもたちにミャンマー語を教えたかったので、店の近くにアパートを借り、日本人の仲間と共にこの活動を始めました。ミャンマー人と日本人の先生が協力して教えています。子どもたちは現在、7～8人くらいで、小学校高学年になると忙しくなってきたり来られなくなることが多いです。今後は、お祭りに参加するなど地域との交流もしてみたいと考えています。

ミャンマー語を身につけ、文化や歴史を学ぶことで、母国にいる親族との会話や母国語の本を読めるようになり、ミャンマー人としてのアイデンティティーを保てるようにと考えています。会に参加した家族は母国に親近感をもち、長期によい親子関係を築いていると感じます。子どもたちには学んだことを母国のために活かしてほしい、日本との懸け橋になってほしいと望んでいます。



## 【ちょうちんまつり】

子どもたちはちょうちんをつくり、民族衣装を着て「ルビー」の前に飾り付けました。



**取材メモ** ヌエ・ヌエ・チョーさんご夫婦は「シュエガンゴの会」以外にも「日本語教室」「東京でのミャンマーのお正月祭りの事務局」「ミャンマーの教育関係者への現地ワークショップ」など、様々な活動をされています。今後もこのような、ミャンマー人と日本人が協働する多文化共生の場の大切さを感じました。

# Mother's Tree Japan



NPO 法人 Mother's Tree Japan は、日本に暮らす外国人の産前産後のサポートとして、LINE 相談や付き添いサービス、交流会などを行っています。2023 年には、妊娠出産と子育てのスタート期に役立つ日本語習得を目的とした「NINPU (妊娠中の女性向けクラス)」と「KOSODATE (産後向けクラス)」を豊島区内にて展開予定です。



事務局長の坪野谷知美さんに千川駅近くの素敵な事務所でお話を伺いました

「木陰では休めて、実がなり、根はどっしりと張って拠り所となる…日本での『お母さんの木』」になろうと「Mother's Tree Japan」を2020年のコロナ禍に設立しました。

8 か月間一步も外に出ていないというネパール人からの相談を受け、外国人は日本人以上に感染に気を遣い、孤立感を抱えていることを知りました。日本で自分たちの力で生きていって欲しいので、先走らず、ヘルプがあったときに応えられる相談先を目指しています。困っている人がいたら、まず相手が何につまずいているのかを聞いてあげてみてください。「外国人シャイ」にならず、文化や宗教を理解してからと構えず「こんにちは」と、垣根を低くして声をかけてください。知らないことを教えてもらったり、きっと楽しいですよ！

～☆募集しています☆～

- ・日本人ママの会員
- ・ボランティア (事務・通訳・イベントの手伝いなど)
- ・サポーター (個人・企業・法人)



指さしボードセット (タイ語)



中央：坪野谷さん (事務所にて)

**取材メモ** 「嬉しいときはどんな時ですか？」

と尋ねた際「出産の報告があったとき」と、前日に生まれた赤ちゃんの写真を笑顔で見せてくださいました。

取材時、終始温かい眼差しで話して下さった坪野谷さん。相談する方はとても安心するだろうなと感じました。

<Mother's Tree Japan へのお問合せ>

Mail: [motherstreejapan@gmail.com](mailto:motherstreejapan@gmail.com)

TEL: 070-8597-2340

# マスジド大塚

JR 大塚駅から徒歩 5 分の場所に位置するモスク「マスジド大塚」。集団礼拝日である金曜日には、1 日に 200 名の方が礼拝に訪れるそうです。マスジド大塚では礼拝のほか、生活困窮者への炊き出しやフードドライブといった、地域貢献活動も行っています。



右から日本イスラーム文化センター事務局長クレイシ・ハールーンさん、会長アキール・シディキさん

日本イスラーム文化センター マスジド大塚事務局長のクレイシ・ハールーンさんに、活動についてお聞きしました。

「困っている者を助けないことは罪である」というものがアッラーの教えにあり、困っている人を助けるということは当たり前だと考えています。

最初に行った活動は、2000 年にアフガニスタンで起きた干ばつの時でした。モスクで古着を集め、現地に送る活動をしました。東日本大震災の時は、100 回以上に及ぶ炊き出しを行いました。東池袋中央公園にてホームレス支援団体「TENOHASI」と一緒に行っている炊き出しは、既に 10 年以上行っています。フードドライブの活動は、地方出身の大学生が、コロナ禍でアルバイトができず生活に困っているという話を聞いたことがきっかけでした。モスクで集めた食料等を大学へ送ったところ、400 名以上の学生が求めにきたそうです。現在は慶応義塾大学「ムスリム共生プロジェクト」と共に月 1 回フードドライブを開催し、集まった食料品等は子ども食堂やひとり親家庭等へ寄付しています。

今後は活動の頻度を増やしたり、廃棄前の食材を活用し生活困窮者へ配布を行ったりするなど、活動をより発展させていきたいです。

## 取材メモ

「言葉や宗教など違ってても、人類はみんな大家族」というクレイシさんの言葉がとても心に残りました。国や宗教を超えた共助が、今後も広がっていくことが楽しみです。

日本イスラーム文化センターHP

マスジド大塚 Twitter



## CSW が関わった取り組み

CSW は、年齢や性別、障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もが地域の中で助け合い、自分らしく生きていける地域（地域共生社会）づくりをすすめるため活動しています。そこには、町会や民生委員、関係機関、支援団体と連携・協働も欠かせません。

ここでは、区内で行われている CSW が関わった多文化共生の取り組みについて紹介します。

Zoom 交流会 フレイル対策センター×メロス言語学院	p 12
地域福祉サポーターによる通訳ボランティア	p 13
多文化共生交流会@サロンデザミ高田	p 14
外国にルーツのある方へのアンケート調査	p 15

# Zoom交流会 フレイル対策センター×メロス言語学院

## ～中国、韓国、ロシア等、様々な国籍の留学生との Zoom交流会～



東池袋にある日本語学校「メロス言語学院」は、地域交流等に積極的な学校ですが、コロナの感染拡大により、地域サロン等への参加ができなくなりました。コロナ禍でも何かできないかと考えたCSWから、メロス言語学院の先生に、Zoomを活用し

たオンライン交流会を提案しました。「東池袋フレイル対策センターいーとこ」に協力いただき、令和3年1月、留学生と高齢者等とのオンライン交流会が始まりました。月1回開催することで、最初はZoomに不慣れだった方も、今では自宅から“Zoom交流会”に参加し、交流を深めています。



「東池袋フレイル対策センターいーとこ」での参加風景



### ～参加の水原さん（右）からメッセージ～

画面越しの留学生の笑顔を見ると嬉しくなります。知らないことを聞くと勉強になるし楽しいです！

＜開催日時＞ 毎月第4金曜日

10:30 (10:15から入室可) ～11:45

＜お問い合わせ＞

東池袋フレイル対策センターいーとこ

TEL: 03-5924-6212

メロス言語学院

QRコード

住所 〒170-0013

豊島区東池袋 2-45-7

電話 03-3980-0068



# 地域福祉サポーターによる通訳ボランティア

## ① 台湾出身の70代女性 Aさんより、CSWが相談を受けました



最近夫が亡くなり、寂しさを感じています。外出する機会があればよいのですが、視覚障害があり、参加できる活動が限られています…

## ② 詳しくお話を伺い、どんなことができるか一緒に考えました



中国語・英語を話すことができ、以前は通訳の仕事をしていたというAさん。また、Aさんは地域福祉サポーターでもあり、人の役に立ちたいという思いが以前よりありました。

## ③ 「としまる」(フードパントリー・相談会)にて、通訳ボランティアへの参加を提案しました



人の役に立てるのは嬉しいので、やってみたいです！

## ④ 「としまる」(フードパントリー・相談会)当日



日本語が話せない中国籍の相談者へ、通訳をしていただきました。相談者も中国語で話ができることで安心した様子でした。

Aさんは他にも、長年日本に住んでいる経験を活かし、日本の文化を外国籍の方へ伝えることもしてみたいと話しています。

## コラム②

### 【地域福祉サポーターとは？】

豊島区民社協では、「身近な地域で不安や悩みを抱えた人たちに気づきや声かけなどの活動をおこなう“地域の小さなアンテナ役”『地域福祉サポーター』」を募集しており、現在約280名の方が登録しています。

資格は区内在住等の18歳以上などで、学生・外国籍・障がいや難病を抱えた方も登録され、住民同士が支え、支えられて地域で生きてゆく「ささえあいの仕組みづくり」をめざしています。

学習支援活動などの**地域を元気にする活動**や、このような**多文化共生の取り組み**にも関わっています。



# 多文化共生交流会@サロンデザミ高田

2022年9月2日（金）高田介護予防センターで行われた「サロンデザミ高田」に、多文化共生交流会と称して、ミャンマー人の方（地域福祉サポーター）2名、地域住民3名とCSWが出張し交流しました。

写真でミャンマーのお祭りや花の紹介をしたあと、ミャンマーの天然の日焼け止め「タナカー」を肌に塗ってみて暑い国の工夫に感心したり、民族衣装の布を腰に巻き付けてみるなどして交流をしました。

高田・高田馬場地域一帯はリトルヤンゴンとも言われる、ミャンマーの方が多く住む地域です。ビルマと呼ばれた頃からの日本との長い歴史のつながりや、仏教国同士の祭事の共通点を発見し、ミャンマーが身近になったという意見がでました。最後にみんなで、「ありがとう」を意味するミャンマー語『チエーズ』の言葉をお互いに贈りあいました。

単発イベントでしたが、今後もこんな相互理解が深まる取り組みがあるといいですね



ミャンマーのお祭りや国の花などを写真で紹介。ミャンマーの日焼け止めを塗ってみる体験も。



自己紹介

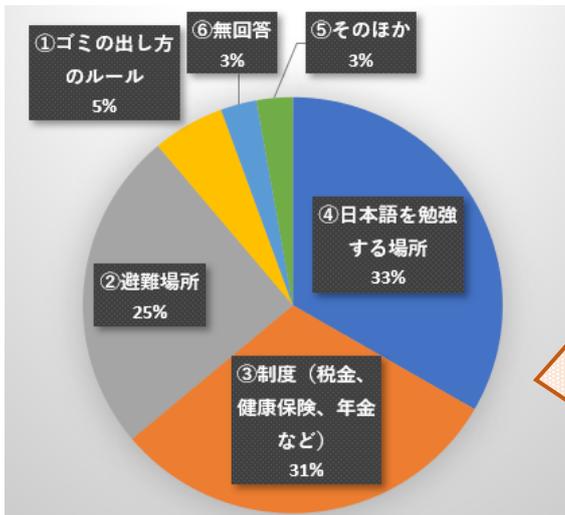


## 【交流会に向けての準備】

ミャンマーの方2名、地域住民の方3名とCSWで事前準備のために集まりました。ミャンマーのお正月（水かけ祭り）の写真や動画を並べて一緒にどんなふうに説明しようかと考えたり、ミャンマーを訪ねたことのある住民が民族衣装の腰巻を持参してデモンストレーションをするなど、ミニ交流の場にもなりました。

# 外国にルーツのある方へアンケート調査を行いました！

ある町会の方より「地域の外国人の方と交流したい」という声が CSW へ寄せられました。それをきっかけに、外国籍住民のニーズを把握するため、CSW がアンケートを作成し、「としまる」（フードパントリー・相談会）に来られた外国人の方へ調査を行いました。アンケート結果を一部ご紹介します。

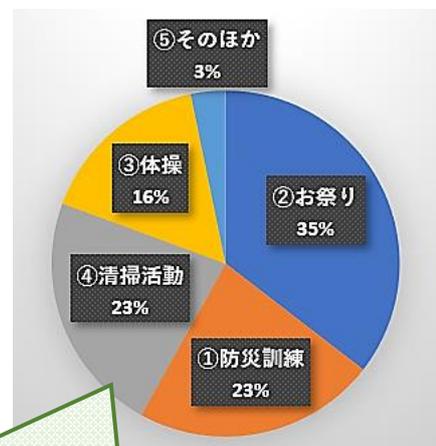


## 日本での生活で知りたい情報は？

「日本語を勉強する場所」「制度」について知りたいという回答が多かったです。「子どもの教育について知りたい」という声もありました。一方、「ゴミの出し方のルール」について知りたい方は少ないという結果になりました。

## 町会のイベントに参加してみたい？

「はい」と回答した方が約 7 割でした。



## 町会の活動で参加してみたいものは？

「お祭り」と回答した方が最も多く、次いで「防災訓練」「清掃活動」という結果になりました。

ご紹介したデータは令和 4 年 8 月 20 日（土）南大塚地域文化創造館で行われたものです。



アンケートの結果では、地域とのつながりを求めている外国人の方が多いということが分かりました。今後どのように多文化共生の取り組みにつなげていくか、地域の皆さんと一緒に考えていきたいです。



## 【Special Thanks】

TOSHIMA Multicultural Support(としまる)

多文化としまネットワーク

日本語ネットとしま

ほか取材・掲載に協力いただいた皆さま

## 【発行】

社会福祉法人 豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課

〒170-0013 豊島区東池袋 1-39-2 豊島区役所東池袋分庁舎 3階

T E L : 03-3981-4392 F A X : 03-5950-1239

E-mail : csw\_toshima@a.toshima.ne.jp



豊島区民社協キャラクター  
ふくみん ふくじい

2023年2月

